

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜わり、誠にありがとうございます。  
本日、平成 21 年度の業績について公表いたしました。

### <金融経済環境>

わが国の景気は新興国を中心とする海外経済の回復に伴い輸出が増加し、個人消費の一部に景気対策の効果が表れていることなどから、持ち直しつつあります。しかしながら、雇用情勢は依然として厳しく、デフレが続いています。中小企業の景況は、売上高が近年のピークを大きく下回る状況に加え採算状況、資金繰りともに悪化が続いており、内需の回復が鈍いなか、平成 22 年度も厳しい状況が続くものと見込まれます。

### <平成 21 年度の回顧>

このような環境のもと、商工中金はセーフティネット機能の発揮を最重要事項とし、法定された指定金融機関として危機対応業務を中心にその機能発揮に全力をあげて取り組んでまいりました。危機対応業務開始以降の累計実績は 3 万 7 千件、2 兆 7 千億円を超える規模となり、こうした中小企業の資金繰りや経営の安定化への支援を通じて、地域の雇用維持・経済の安定化に大きく貢献することができました。また、平成 21 年 12 月に「中小企業金融円滑化法」が施行されました。同法において、商工中金は、申込等を受けた銀行等の民間金融機関と緊密な連携を図るべき者と位置付けられたことから、商工中金の使命・期待される役割がより一層発揮できるよう、規程・態勢を整備し、職員に対してその趣旨を徹底するとともに、経営課題等に対するソリューションの具体的な取組みを公表するなど中小企業の金融円滑化に向けた取組みを一層強化いたしました。

このような取組みの結果、貸出残高は通期で約 2,900 億円の増加となり、収支につきましても、貸出増加等による資金利益の改善に加え、一層の経営効率化に取り組んだことなどにより、109 億円の経常利益、56 億円の当期純利益を計上することができました。この間の株主の皆さまならびにお取引先の皆さまのご支援に厚くお礼申し上げます。

### <平成 22 年度の業務運営>

中小企業の皆さまを取り巻く厳しい環境が続くなか、商工中金としましては、求められる役割の大きさを十分認識し、国や中小企業の皆さまの厚い期待にしっかりと応えるべく、引き続き、「セーフティネット機能の発揮」を最重要事項とし、危機対応業務を中心にその機能発揮に万全を期して取り組んでまいります。

また、商工中金は「中小企業金融の円滑化」を目的とした金融機関として、その使命・役割を的確に発揮していくため、お取引先とのリレーションを一層強化し、危機対応業務を含めた融資のみならず、返済条件の変更を希望されるお取引先に対しては、実情に応じできる限りこれに対応するほか、お取引先が抱える経営課題の解決に向け、経営改善支援やソリューションを提供する等、中小企業の持続的成長（＝中小企業の皆さまの企業価値向上）に向けて全力でサポートしてまいります。

こうした取組みを一層強化するとともに、一段の経営合理化を図ることなどによって、商工中金自らの健全な経営基盤の構築へ繋げてまいります。

大変厳しい環境ではありますが、「中小企業の、中小企業による、中小企業のための金融機関」として、皆さまから信頼され、支持され、これまで以上にお役に立てるよう、役職員一同、全力で努力を続けてまいります。

今後とも格別のご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。